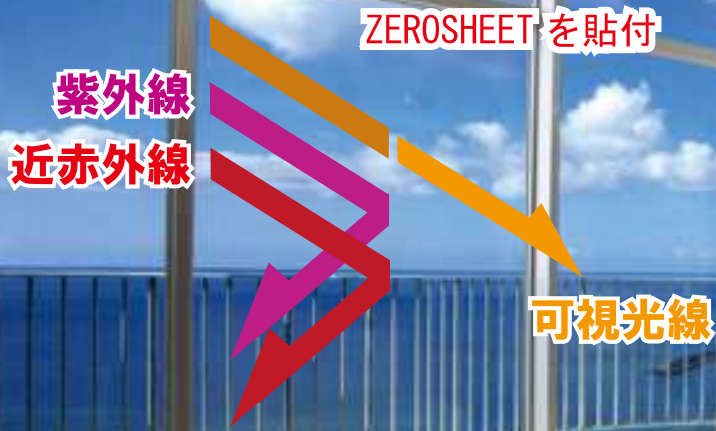




貼って剥がせるガラス用遮熱シート ZEROSHEET



紫外線を約99%カット

近赤外線を約70%カット

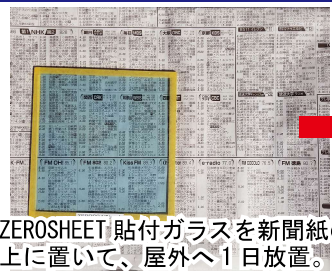
飛散防止効果

賃貸物件でも使用可能

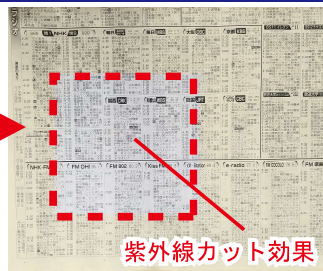
飛散防止フィルムの上に貼れる

※1 紫外線カット率、可視光線カット率は JISA5759 により測定した数値です。
※2 近赤外線カット率は JISA5759 により日射透過率を測定し、波長域 780 ~ 2500nm の透過率値の単純平均値を 100 から引いた数値です。
※3 飛散防止効果とは飛来物による飛散を軽減・防止する効果であり、JIS 規格の飛散防止フィルムとは異なります。

ZEROSHEET（ゼロシート）貼付後の紫外線カット性能



ZEROSHEET 貼付ガラスを新聞紙の上に置いて、屋外へ1日放置。

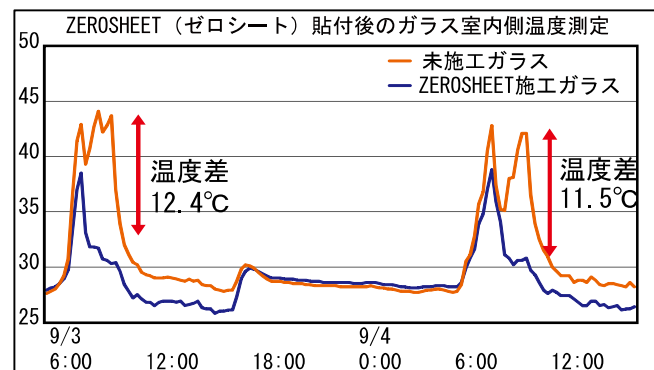


紫外線の侵入を約 99% カットするのでシミ、ソバカスなどからだへの悪影響を防ぎ、フローリング、カーペット、カーテン、家具、商品、カタログなどの日焼けや劣化を防ぎます。

虫は紫外線に集まる習性（走行性）があり、夜間は室内の蛍光灯が発する紫外線に集まります。貼付後は窓ガラスの室外側にて紫外線をカットするので蛾、ハエ、ユスリカなどの虫が窓ガラスに寄り付きにくくなります。

ZEROSHEET（ゼロシート）貼付後のガラス室内側温度測定

近赤外線の侵入を約 70% カットするので肌を刺すようなジリジリ感や太陽熱の侵入を抑えます。窓際の温度上昇を抑えますので冷房機器使用量が減り約 20% の省エネ効果が期待できます。



ZEROSHEET（ゼロシート）貼付ガラスのガラスの割れ軽減効果（鉄球落下試験）

厚さ3mmのガラスでZEROSHEET（ゼロシート）貼付ガラス、未貼付ガラスに100cmの高さから鉄球1040gをガラス中央部へ自然落下させる。ガラスが破損しない場合は鉄球の落下高さを10cmずつ上げて同じ場所へ連続落下させる累進試験を行う。

鉄球落下高さ	100	110	120	130	140	150	160	170	180
未貼付ガラス	○	○	○	○	○	破損			
ZEROSHEET 貼付ガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○



ZEROSHEET（ゼロシート）貼付ガラスは高さ180cm（同じ場所へ連続で9回）落下させてもガラスにひび割れ、破損が発生しなかった。

ZEROSHEET（ゼロシート）使用上の注意事項

○ZEROSHEET を用途以外に使用しないでください。

○ZEROSHEET と透明保護フィルムの間に空気が入っている場合がありますが、性能には影響はありません。

○ZEROSHEET 貼付後はガラスと全く同じ品質の視界が得られるわけではありません。

○ZEROSHEET 貼付後数日でシートとガラスの間の水が抜けてシートがガラスに密着することで視界が改善されます。

○貼付後は軟質塩ビシートの臭いがする場合がありますが数日で改善されます。必要に応じて換気をして下さい。

○貼付け時はやさしく空気と水を十分に押し出して下さい。押し出しが不十分な場合はシートが剥がれる原因になります。

○ZEROSHEET は温度変化や強く引っ張る事でシートが伸びてしまいますので、取扱に注意願います。

○ZEROSHEET は7年を目安に貼り換えて下さい。ただし劣化の状況によって早めの交換をお薦めします。

○ZEROSHEET は高温多湿下で経時変化が促進されることがあります。通常の居住環境以上に高温多湿な場所で使用しないで下さい。

○ZEROSHEET の表面を拭く場合は濡れた柔らかい布で優しく拭いてください。

○ZEROSHEET 貼付後に剥がれてきた場合は剥がれてきた面を洗浄してから、水をスプレーして貼りなおして下さい。

○ZEROSHEET は生産ロットにより多少色の差が生じる場合がありますが、性能に影響はありません。

○ZEROSHEET を廃棄する場合は、各自治体の指示に従ってください。

○ZEROSHEET の仕様は予告なく変更することがあります。

○記載の数値は試験結果、計算結果であり、保証値ではありません。

ZEROSHEET（ゼロシート）の基本的な貼り方

○貼付けを推奨できるガラス（室内側に貼ってください）

透明板ガラス／透明複層ガラス（但し2㎡未満）

○貼付けを推奨できない、注意が必要なガラス（環境によっては熱割れリスクの可能性が高く注意が必要なガラス）

推奨できるガラス以外のガラス面（透明複層ガラス（2㎡以上）／網入りガラス／熱線吸収ガラス／熱線反射ガラス／

Low-e 複層ガラス／60℃以上の熱がかかるガラス／ひび割れがあるガラス、

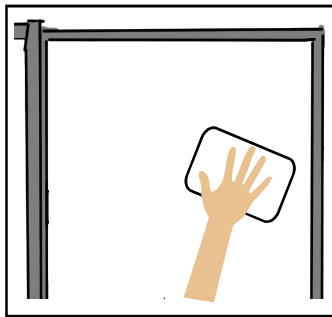
※貼れないガラス（推奨出来ないガラス）にゼロシートを貼ると熱割れ現象を起こす可能性が高くなります。

熱割れ現象に関しては可能性の有無だけで絶対的な判断ができませんので保証することが出来ません。

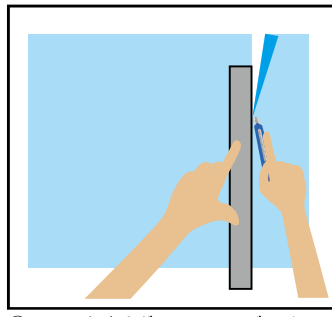
貼る前に準備するもの

タオル、定規、メジャー、カッター、霧吹き、スキージー（無い場合はプラスチック定規やカードなどを柔らかい布で巻いたもの）

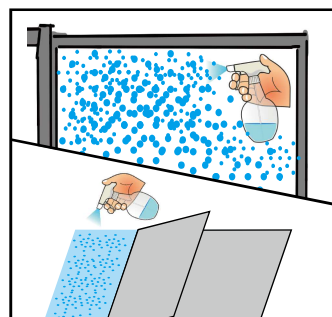
※水を使用しますので濡れて困る場所は新聞紙やビニールシートなどで養生する。



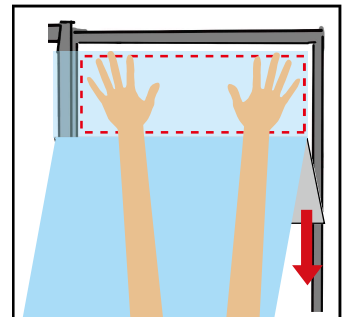
①タオルでガラス面をきれいにします。
四隅は念入りに拭きます。
タオルの繊維がガラス面に残らない様にします。



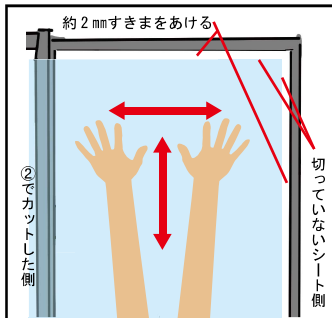
②シートを貼るガラスのサイズより5cm程度大きめにカットします。
※このカット面は貼付後にカットして取り除く部分になるのでキレイにまっすぐカットする必要はありません。



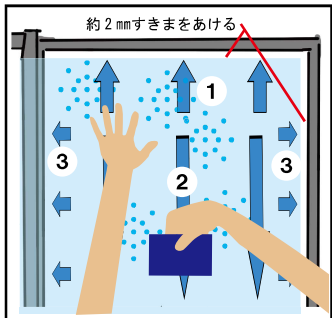
③ガラス面全体に水をたっぷりスプレーします。シートの透明保護フィルムを約30cmはがしてシートにも水をスプレーします。



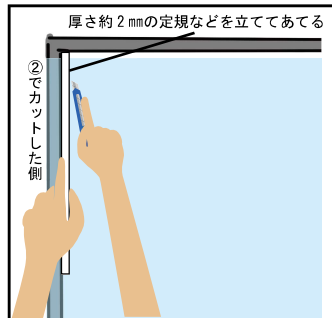
④水をスプレーしたシート部分をガラスに貼り、ガラス面に貼ったシートを片手で抑えてながらもう片方の手で透明保護フィルムを少しずつ下向きにはがします。



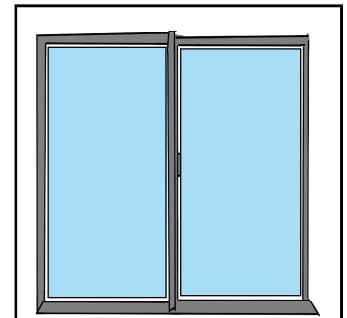
⑤シートを両手で上下左右に動かしながら②で切っていないシート側をガラスのゴムから約2mmすきまをあけた位置で決めます。
②でカットした側がガラス面の外へ出る様に貼ります。



⑥シート表面に水をスプレーして片手でシートを押さえながらスキージーで空気と水を1、2、3の様に内側から外側に押し出します。
① 空気は押し出しは初めは少し軽い力で押し出し、2回目、3回目ですっかり押し出します。
② 空気が出しにくい場合は、シートをめくりガラス面に水をスプレーします。



⑦厚さ約2mmの定規などをサッシに当て立てるように固定し、定規にそってカッターを動かしてシートをカットします。定規などの厚さガラスのゴムとシートの隙間が出来ます。
※ガラス面へのキズを防ぐために、カッターはよく切れる刃先でカッターの刃先はガラス面を滑らす様に力を入れずシートだけを切ります。



⑧シートの端に押し出した水やシート表面、周囲についた水をタオルで拭き取り完成です。

○水 200cc に中性洗剤を数滴混ぜた水を、垂れるぐらいたっぷりガラス面にスプレーしてください。

○シートの貼り位置を決める時にガラスの上でシートが動かせるくらい水をたっぷりスプレーしてください。

○水が少ないとガラス面でシートが動かなかったり、空気との押し出し作業が難しくなります。

○空気と水の押し出し作業は1度で強くこするのではなく数回に分けて行ってください。

○空気と水の押し出し作業は、シートを押さえながら中心から外側、上から下に向かって押し出して下さい。

○空気が残った場合はシートを剥がして再度スプレーしてから空気を押し出して下さい。何度でも貼り直し出来ます。

○カッターはよく切れる刃先でして下さい。

○掃出し窓に貼る場合や1人で貼りにくい場合は2人で作業をして下さい。

○貼付後も多少水が残りますが、1週間程度で徐々になくなります。

DIYでの貼り方



DIYでの貼り方
(大きなガラス)



貼付後の温度上昇
抑制効果実証試験



総販売元

ZERO EMISSION

株式会社ZERO

〒660-0813 兵庫県尼崎市杭瀬寺島1丁目4番39号

リンクスタイルV 104号室

TEL : 06-4950-8627 / Mail: info@zerocon.co.jp

http://www.zerocon.co.jp/

材質 : (シート) 軟質塩化ビニール、(透明保護フィルム) PET フィルム / 耐熱温度 : 60℃

記載の内容は製品改良のため、予告なく変更される場合があります。記載の数値は試験結果、測定結果であり保証値ではありません。